

令和5年度 学校評価（共通項目）評価書

和光市立 新倉小 学校

柱	No.	評価項目	自己評価	自己評価の説明及び学校の考え	関係者評価	学校関係者評価の説明
学校の組織運営	1	学校は、学校教育目標達成に向けて全教職員で組織的に取り組んでいる。	A	校務分掌では学校教育目標を中心に置いた取組を行い、組織的に計画的に取り組むことができた。	A	教育目標に向けて、さまざまな工夫を行い、教職員が協力して学校教育目標の実現に向けて取り組んでいる。
	2	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。	A	アフターコロナにおける感染症対策を含め安心できる学校づくりに取り組んだ。PTAの協力を得て、環境整備に努めた。	B	学校の構造上の問題でもあるが、防犯カメラは設置されているものの、校内に侵入できる可能性がある。また、ピロティー校舎の防災面も含めた危機管理体制の構築が難しい。
基礎学力の定着	3	児童生徒は、教職員の指導により、基礎学力を身に付けている。	A	算数のステップアップ教室などで個別の学習支援に力を入れ、基礎学力の向上につなげることができた。	A	授業数の確保のため、授業の内容や授業日数の確保をしっかりと行い、児童への指導に力を入れていた。
	4	学校は、学力向上を目指し、児童生徒の実態に基づいて授業改善に努めている。	A	授業の中で「めあて」を確認し「振り返り」を行うことで児童の学力を高めることができた。発達に課題のある児童に対してもつまづきを探し、学力の向上につなげることができた。	A	教師は一人一人の配慮を欠かさず、しっかりと取り組んでいる。保護者からは見えにくい項目であってもさくら連絡網や学校HPの活用により工夫や努力をアピールできている。
	5	学校は、学習ルールを共通理解するなど、学習規律の確立が図られている。	B	学校の課題を捉え、学習や生活のルール（新倉スタンダード）の定着を図り、全学年で取り組んだが、担任同士の指導の温度差があった。	A	共通理解や統一性を図るために、今後もしっかりとした周知や共有が必要であり、保護者との連携も必要である。
規律ある態度育成	6	児童生徒は、生活のルールに基づき、発達段階に応じた規律ある態度を身につけている。	B	大きな声であいさつのできる児童が増えた。言葉づかいが悪く、なかなか徹底できない。家庭との連携が必要である。	B	登校やあいさつの仕方についてしっかりと指導されている。課題として、挨拶の様子は、個人差が大きい事と地域でもできるようにするとよい。
	7	学校は児童生徒の実態把握に基づき、規律ある指導の工夫・改善に努めている	A	児童の現状と課題に目を向け、道徳主任のリーダーシップの下、授業に力を入れ、道徳の時間を中心に実態に即した行動ができるようになった。	A	実態に基づいた規律ある態度の育成には、校長のリーダーシップの下、しっかりとした指導がなされていると感じる。
健康・体力向上	8	児童生徒は、体育の授業や運動部活動、外遊び等の運動に意欲的に取り組んでいる。	A	体育の授業だけではなく休み時間も、担任が率先して外遊びに参加して、意欲的に運動する児童を増やすことができた。	A	体育の授業では児童がよく動き、楽しそうに活動している。コロナ禍の中、教職員の工夫が感じられる。
	9	学校は、児童生徒の体力を高めるため、意図的に向上策を講じている。	A	ランランタイムや授業の内容を精選し、児童が興味関心を持って体力を高められるように工夫した。	A	ランランタイムや運動会をはじめとする学校行事において体力の向上のため、体を動かし運動の楽しさを伝えている。
連携	10	学校は、保護者や地域と連携し、その教育力を学校運営や教育活動に生かしている。	A	学校運営協議会をパイプ役として地域との連携を図ることができた。さくら連絡網や学校HPを通して、教育活動を理解してもらうことができた。	A	さくら連絡網や学校HPの更新が多く、教育活動が伝わる部分も多かった。また、学校関係者として学校運営に協力できた部分も多かった。

